

令和2年度文部科学省委託事業
「専修学校と地域の連携深化による職業教育魅力発信力強化事業」
専修学校と各地域の連携による「職業体感型教育」等の効果検証

専修学校の様々な取組を活用した 職業体感型教育の効果検証事業 事業成果報告書

■調査研究報告■

企業（就業）の観点からの職業体感型教育の意義と効果

■職業体感型教育モデル開催マニュアル■

次世代人材職業体験推進事業

進路探究学習オリエンテーリング事業

高等学校内キャリア教育プログラム

専門学校勉強会

公益社団法人北海道私立専修学校各種学校連合会

はじめに

令和2年度は専修学校にとって、新型コロナウイルス感染症に翻弄された1年となりました。感染拡大を防ぐために学校を休業する一方で、生徒の日常をケアし、学業の遅れを取り戻すための様々な手立てが講じられました。

生徒が社会に出るまでには、知識と体験による理解と学びが不可欠です。教職員と生徒がそれこそ一丸となり、試行錯誤を重ねながら学びを積み重ねる中、就職状況は厳しさを増しています。専修学校生はまさに、嵐の中への船出を余儀なくされています。

学業に関しては高校や中学校でも同様のことと思います。

多くの高校や中学校では休業により授業に遅れが生じるなかであっても、私たちが取り組んでいる職業体験講座や出前授業を活用して、生徒への職業観や勤労観の醸成のための機会づくりに積極的に取り組んでられました。修学旅行を活用して生徒に職業体験講座を受講させている中学校のなかには、日程を何度も変更した学校も多くありました。出前授業を申し込んだ高校でも、日程の変更を強いられながら、何とか実現できた高校もありました。

先が見通せない状況となり、職業観や勤労観を身に付けることの重要性がこれまで以上に高まっていると感じました。

私たちは昨年度から文部科学省の委託事業を活用して、中学生や高校生に対する職業体験講座や出前授業などのいわゆる職業体感型教育の意義や効果の検証に取り組んできました。昨年度は、私たちが取り組む職業体感型教育を検証して、中学生や高校生の職業理解や進路選択に高い効果があることを評価していただきました。

そして今年度は、企業（就業）の観点からの職業体感型教育の意義や効果について、青森大学の金井一頼学長と大阪経済大学経営学部の吉野忠男教授に分析・評価していただくとともに、職業体感型教育に取り組む際の参考としていただくための開催マニュアルを作成しました。

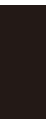
2か年にわたる取組は、私たちにとっても事業を評価しなおす貴重な機会となりました。これらの成果が、職業体感型教育に取り組もうと考えておられる方々の参考となることを心から願っています。

関係の皆様のご協力に心からお礼を申し上げますとともに、引き続き、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

令和3年2月

公益社団法人北海道私立専修学校各種学校連合会

理事長 吉田 松 雄



目 次

はじめに	1
第1部 事業の概要	5
1-1 事業の概要	5
1-2 組 織	8
1-3 会議等開催状況	11
第2部 調査研究報告	17
「企業（就業）の観点からの職業体感型教育の意義と効果」	17
第3部 職業体感型教育モデル開催マニュアル	117
3-1 次世代人材職業体験推進事業	117
3-2 進路探究学習オリエンテーリング事業	175
3-3 高等学校内キャリア教育プログラム	239
3-4 専門学校勉強会	301

